

地域の担い手として
ともに活躍するために

第 6 期大和市多文化共生会議
提言書

2026 年 7 月

はじめに

第 6 期大和市多文化共生会議は、外国人市民と日本人市民が同じ地域に暮らす住民として共生・協働できる地域づくりのために必要な取り組みを検討する目的で 2024 年 8 月にスタートしました。私たちは、本会議の委員として 2 年間にわたって多文化共生の視点から外国人市民を取り巻く地域の課題について、継続的に話し合いを重ね、大和市への提言を検討してきました。

この 2 年の間、SNS をはじめとするメディアにおいて、急増する外国人への戸惑いや不安の声が目立つようになったことで、国の外国人施策への関心が高まり、日本に暮らす外国人へのまなざしは大きく変わったと実感しています。

そうした中、本会議における委員それぞれの経験や視点から生まれる活発なグループディスカッションは、新鮮な気づきと刺激にあふれ、安心して対話することができました。委員による個別のプレゼンテーションを通じて、お互いをより深く知ることができたのも印象深い経験でした。

グループディスカッションを重ね、本会議で取り組むテーマは、①意識啓発と社会参画支援、②医療・福祉・災害をはじめとする情報提供、③子どもの教育にフォーカスしていきました。私たちが行った議論や調査の結果、現在の大和市においては、多文化共生に関する施策や支援は一定程度整備されている一方で、それらが十分に活用されていない実態が見えてきました。また、外国人市民の中には同国人コミュニティの中で生活が完結し、地域住民との交流が少ない方もいることがわかってきました。

学校や行政、地域拠点を横断した「見つけやすく、理解しやすく、相談しやすい」共生の仕組みを整える必要があります。それによって、外国人市民の活躍が期待できます。

また、地域の中での交流や相互理解を一層深め、互いの姿をよりよく知ることによって、日本人市民の戸惑いや不安の声も次第に解消されることでしょう。

外国人市民、日本人市民がともにもてる力を発揮し、地域の担い手として活躍できる大和市となるよう、今回の提言の趣旨を踏まえた多文化共生施策のさらなる推進をお願いいたします。

第 6 期大和市多文化共生会議

委員長 キップランガト ジャスタス

目次

はじめに

会議の概略

I	提言	1
1	意識啓発と社会参画支援	1
2	情報提供（医療・福祉・災害）	5
3-1	子どもの教育（多様性教育）	9
3-2	子どもの教育（学校・地域・家庭の役割）	11
II	委員の振り返り	12
1	参加のきっかけ・関心のあること	
2	印象に残ったこと	
3	気づいた課題	
4	今後に向けて	
III	会議の概要	17
1	目的	
2	委員	
3	任期	
4	ファシリテーター	
5	開催状況	
IV	資料	19
1	委員名簿	
2	会議設置要綱	
3	日本人市民へのヒアリング結果	
4	外国人市民へのヒアリング結果	
5	市広報課へのヒアリング結果	
6	市教育委員会へのヒアリング結果	
7	外国人保護者へのヒアリング結果	

会議の概略

○ 大和市多文化共生会議とは

外国人市民を取り巻く地域の課題について協議し、外国人市民と日本人市民が同じ地域に暮らす住民として共生・協働できる地域づくりに必要な取り組みについて検討することを目的とした会議です。委員は外国人市民だけでなく、日本人市民を含む公募の市民で構成されます。委員の任期は 2 年間で、会議の検討結果を大和市長に報告・提言します。

○ 第 1～5 期までの経過

第 1 期は公益財団法人大和市国際化協会（以下、「協会」という。）が自主事業として実施し、第 2 期以降は大和市の委託事業として、協会が受託して実施しました。これまで、外国人市民への情報提供、子どもや成人の日本語教育、医療・健康、防災・災害対応などの課題を取り上げ、大和市に報告・提言を行いました。

○ 第 6 期会議

本会議には 16 名の方が委員として参画しました。これまでの委員とは異なり、かつて外国ルーツの子どもとして日本の小中学校に通った経験を持つ第 2 世代の方が新たに参加したことが最大の特徴です。また、20 代から 70 代までの幅広い世代からの参加があり、それぞれの視点から話し合うことができました。

当初は、外国人市民向けの LINE グループの開設など、SNS を活用した情報発信に関する提案が委員から出されました。一方で、地域課題の背景や要因についての理解を深める必要があると考え、有識者から話を聞く機会を設けることとしました。

菊池哲佳准教授（明星大学）から外国人を取り巻く現状や多文化共生の考え方について、大石文雄事務局長（NPO 法人在日外国人教育生活相談センター・信愛塾）から在留資格や制度的差別などの課題について講話をいただきました。

その後、委員が検討を重ねた結果、以下の 3 つのテーマを設定し、4 つのグループに分かれて調査と検討を行いながら提言内容をまとめました。

- ① 意識啓発と社会参画支援
- ② 情報提供（医療・福祉・災害）
- ③ 子どもの教育（多様性教育、学校・ボランティア・家庭の役割）

提 言

Ⅰ 意識啓発と社会参画支援

提言Ⅰ-Ⅰ 誰もが暮らしやすい地域づくりに向けて、多文化共生に関する宣言を行う。

提言Ⅰ-Ⅱ 「多文化アンバサダー」等の仕組みを設け、外国人市民を地域の担い手として位置づけるとともに、外国人市民と日本人市民をつなぐ情報発信や交流を促進する。

Ⅱ 情報提供（医療・福祉・災害）

提言Ⅱ-Ⅰ 市の情報発信に関する統一的なガイドラインを策定する。

提言Ⅱ-Ⅱ 外国人市民が必要な情報にアクセスしやすいよう、市の公式ホームページの利便性を向上させる。

提言Ⅱ-Ⅲ 外国人市民に必要な情報が確実に届くよう、情報発信の方法や周知手段の充実を図る。

Ⅲ-Ⅰ 子どもの教育（多様性教育）

提言Ⅲ-Ⅰ-Ⅰ 外国ルーツの子どもたちが置かれている状況を把握し、人権を守る。

提言Ⅲ-Ⅰ-Ⅱ ルーツや文化的背景を尊重し、多様性を認め合うことができる教育を推進する。

Ⅲ-Ⅱ 子どもの教育（学校・地域・家庭の役割）

提言Ⅲ-Ⅱ 外国ルーツの子どもとその保護者を支えるため、学校・ボランティア・家庭をつなぐコーディネート機能を充実させるとともに、親子が交流できる居場所づくりと、その運営を支える体制を整備する。

I 提言

I 意識啓発と社会参画支援

この会議の期間中、外国人をめぐる戸惑いや不安の声がメディアなどで多く聞かれるようになりました。多くの外国人市民が地域で暮らす中、外国人市民と日本人市民がどのような関係を築いていくべきか——それが私たちの議論の出発点となりました。

地域で暮らす上での生活ルールやマナーは、日本人市民にとっては当たり前のことであっても、外国人市民にとっては分かりにくく、理解が難しい場合があります。また、外国人市民がルールを守らない場合には、日本人市民以上に目立ってしまうという状況があります。

そこで私たちは、日本人市民への街頭インタビューと外国人市民への個別の聞き取りを行い、実際の状況を把握することにしました。その結果、日本人市民と外国人市民の交流の機会が乏しく、互いの姿が見えないまま暮らしている状況が浮かび上がってきました。

日本人市民からは、「言葉が通じない」「生活ルールを知らないように見える」といった声が聞かれました。しかしその一方で、外国人市民と接する機会そのものが少なく、どのように関わればよいのか分からず戸惑っているという実態も見えてきました。また、外国人市民についても、長年日本で暮らしていても、本人が思っているほど制度やルール、マナーを十分に理解できていない場合があることが分かりました。

外国人市民と日本人市民が互いに関わらずに暮らせる状況は、一見すると大きな問題がないようにも見えます。しかし実際には、外国人市民の孤立や日本人市民による誤解・偏見を生みやすくする要因となり、その結果、教育や福祉などの分野で地域課題が深刻化するおそれがあります。

2026 年 1 月に国が策定した「外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策」（以下「総合的対応策」）では、在留外国人が日本語や日本の制度・ルール等を学ぶことができるプログラムの創設を検討することが示されています。今回の調査から明らかになった課題を踏まえると、大和市においても、外国人市民が日本人市民とともに地域の担い手として活躍できるよう、相互理解を深め、支え合いながら暮らせる地域づくりを進めていくことが求められます。本提言の趣旨を踏まえた施策が推進されることを期待します。

提言Ⅰ-Ⅰ 誰もが暮らしやすい地域づくりに向けて、多文化共生に関する宣言を行う。

Ⅰ 市全体で目指す方向性が見えにくい

大和市では外国ルーツの子どもに対する教育支援や多言語による情報提供など、多文化共生に関するさまざまな取り組みが実施されています。しかし、それぞれの取り組みが個別に進められているため、市全体としてどのような地域を目指しているのかが市民に伝わりにくい状況があります。

その結果、外国人市民にとっては地域住民としての実感が持ちにくく、日本人市民にとっても多文化共生を自分自身の課題として捉えにくくなっています。

Ⅱ 「やまと国際交流指針」以降の変化

大和市では、これまで「やまと国際交流指針」に基づき、多文化共生に関する取組が進められてきました。しかし、指針の策定から約15年が経過し、その間に外国人市民の数は1.5倍となった他、在留資格の種類が増えるなど地域に暮らす外国人の背景はさらに多様になってきています。

私たちが実施した調査や本会議での議論からは、外国人市民と日本人市民との接点が限られ、相互理解や関係づくりが十分に進んでいない実態が明らかになりました。学校や地域における孤立、必要な情報や制度へのアクセスの困難さなど、日常生活に関わる課題がいまだに解決していない状況も見られます。

以上を踏まえ、多文化共生に関する宣言を行うように求めます。併せて指針を見直し、市民・行政・関係団体が共有できる目標と方向性を示すことも求めます。これにより、誰もが暮らしやすい地域づくりを推進するための基盤が整うものと考えます。

提言 1-2 「多文化アンバサダー」等の仕組みを設け、外国人市民を地域の担い手として位置づけるとともに、外国人市民と日本人市民をつなぐ情報発信や交流を促進する。

1 外国人市民と日本人市民の間にある心理的な壁

外国人市民への聞き取りでは、日本人市民との関わりに心理的な壁を感じ、必要以上に踏み込まないようにしているという声が聞かれました。一方、私たちが実施した街頭インタビューでは、日本人市民の多くが外国人市民との関係について大きな問題意識を持っていないことがうかがえました。

しかし、言語や生活ルールなどに関して困りごとを抱える外国人市民が存在することも明らかになっています。外国人市民と日本人市民が互いの状況を知る機会が少ないことが、地域における課題の一つとなっています。

2 外国人市民が日本人市民と関わらなくても生活できる現実

外国人市民の中には、地域とのつながりを積極的に築こうとする人がいる一方で、同国人コミュニティを中心に生活している人もいます。

そのため、日本人市民との接点が少ないまま生活できる状況が生まれており、相互理解や地域との関係づくりが進みにくい要因の一つになっていると考えられます。

3 外国人市民の視点や経験を生かす取組の有効性

調査やヒアリングでは、同じ言語や文化的背景を持つ人からの説明は理解されやすく、信頼関係の構築にもつながりやすいことが確認されました。

例えば、南大和病院では外国人スタッフが通訳にとどまらず、外国人患者に寄り添いながら支援を行っています。その結果、外国人患者から高い信頼を得ており、県外を含む遠方から受診する人もいるとのことでした。

このような事例は、外国人市民が持つ視点や経験が、情報伝達や相談支援、地域との橋渡しにおいて大きな力を発揮することを示しています。外国人市民を地域の担い手として位置づけ、その力を生かす仕組みづくりが求められています。

4 地域の中で埋もれている機能の可視化

外国人市民は、家族や友人、同国人コミュニティの中で困りごとを解決しようとする傾向が見られます。一方、日本人市民の多くは外国人市民との関係について大きな問題を感じておらず、関わりの中で戸惑いを経験した場合でも、市の窓口等に相談することはほとんどありません。その結果、地域に存在する課題や困りごとが表面化しにくく、行政や地域が実態を把握しづらい状況となっています。

「多文化アンバサダー」等の仕組みとは、外国人コミュニティの中で生活上の相談や地域の交流促進を実質的に担っている人材を、地域の共通資源と位置づけるものです。地域の中で埋もれている機能を可視化し、公共的な価値を与えることが重要だと考えています。

委員が自宅に救急車を呼んだ話

ある委員から、次のような体験談が紹介されました。

重度のヘルニアを患い、深夜に自宅で動けなくなった際、妻に「救急車を呼んでほしい」と頼んだところ、「救急車は料金が高いからタクシーで行こう」と言われたそうです。妻は子どもの頃に来日し、日本語も不自由なく、長年日本で暮らしていましたが、救急車は有料だと思い込んでいました。

委員が「日本では救急車は無料だよ」と説明しても、妻はなかなか信じません。あまりに自信を持って言うため、委員は「もしかすると間違っているのは自分の方かもしれない」と激しい腰の痛みに耐えながら思い始めたそうです。

最終的には「もし料金がかかっても自分が払うから」と説得して救急車を呼び、委員は病院へ搬送されました。ところが、会計を済ませた妻は救急車の利用が無料であることを知り、驚きました。委員自身も、多少の費用はかかるのではないかと思っていたものの、実際には完全に無料でした。

このように日本に長く暮らしており、制度やルールを承知しているつもりであっても、実際に体験してみると、その知識が十分でないことに気づかされることがあります。外国人市民が日本の制度や生活ルールについて、楽しみながら分かりやすく学ぶことのできる機会づくりが求められています。

2 情報提供（医療・福祉・災害）

地域においては、外国人市民に必要な情報が十分に届いていない、あるいは届いていても必要な時に活用できていない状況があります。実際に本会議で実施したアンケートでは、「市のホームページを見たことがある」と回答した外国人市民はわずかでした。

総務省の「地域における多文化共生推進プラン（2020 年改訂）」では、地域が取り組むべき課題の一つとしてコミュニケーション支援が挙げられています。また、2026 年 1 月に策定された「総合的対応策」においても、「外国人の目線に立った情報発信の強化」が示されています。

私たちは、外国人市民が自ら必要な情報にアクセスできる環境を整えることが、命や財産を守るだけでなく、自立や社会参加を促進する上でも重要であると考えます。

特に医療、保健、防災分野については、多言語による情報提供の充実が必要です。また、外国人市民が日本での暮らしで得る知識や経験は、仕事、年齢、滞日年数、家族構成、定住志向の有無などによって大きく異なりますが、日本で暮らす外国人市民の中には、「日常会話程度のかんたんな日本語」であれば理解できるという人も少なくありません。出入国管理庁や文化庁が中心となり「やさしい日本語^{※1}」の活用が進められています。

さらに、近年は生成 AI の普及に加え、自動翻訳機能が急速に発展しています。こうした技術の活用も視野に入れながら、必要な情報を見つけやすく、活用しやすい方法で提供していくことが求められます。

情報発信は、単に情報を届けることが目的ではありません。その情報を活用し、一人ひとりが安心して暮らし、地域社会の一員として活躍できることが重要です。外国人市民も地域を支える市民の一員であることを踏まえ、多様な言語背景や情報環境に配慮し、安心して暮らせる環境づくりが推進されることを期待します。

提言 2-1 市の情報発信に関する統一的なガイドラインを策定する。

1 地域の言語環境

大和市には、2026 年 5 月 31 日現在、92 の国・地域から 9,600 名を超える外国籍の人々が暮らしています。日本国籍を持っていて、外国にルーツを持つ人たちも多くおり、使用言語もさまざまです。また母国で十分な教育を受ける機会がなかった人や、幼少期に来日したために母語と日本語の双方で十分な言語能力を身につける機会が限られた人もいます。

2 「やさしい日本語※¹」とデジタル技術の活用

さまざまな情報がある中で、すべての情報を多言語化することは現実的ではありません。「やさしい日本語※¹」を地域の共通言語と位置づけ、大和市でも活用を進めてください。

また、外国人市民の間でも、自動翻訳ツール等が積極的に活用されていますが、言語によっては誤訳や誤解を生じる可能性があるため、行政が利用するにあたっては、行政文書をそのまま翻訳するのではなく、「やさしい日本語※¹」に書き換えた上で翻訳するなど、情報の正確性を高める工夫が必要です。

以上を踏まえ、外国人市民への情報提供にあたっては、地域の実情に合わせ、どの情報を多言語化するのか、どの言語に翻訳するのか、「やさしい日本語※¹」をどのように活用するのか、また生成 AI や翻訳ツールをどのような場面で利用するのか等について、市として統一的な指針を策定し、庁内で共有することを求めます。

やさしい日本語※¹とは・・・

やさしい日本語とは、「難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語」のことです。

横浜市が 2024 年に実施した外国人意識調査では、54.4%が「日常生活に困らないくらい日本語を話し、聞き取ることができる」と回答しています。また、60.0%が「メールやチラシなど短い文章を読むことができる」と回答しています。

また、東京都国際交流委員会が 2018 年に実施した「東京都在住外国人向け情報伝達に関するヒアリング調査」では、回答者 100 人のうち 76 人が希望する情報発信言語として「やさしい日本語」を挙げており、外国人住民にとって有効な情報伝達手段の一つであることが示されています。

2020 年 8 月には、出入国在留管理庁と文化庁が国や地方公共団体がお知らせなどの情報を作る時の書き言葉に焦点を当てたガイドラインとして、「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」を作成しています。その中では、日本語の難易度を調べることができる無料の「書き換えツール」等も紹介されています。

提言 2-2 外国人市民が必要な情報にアクセスしやすいよう、市の公式ホームページの利便性を向上させる。

外国人市民が必要とする情報の整理

デジタル技術の発展により、誰もが容易に情報へアクセスし、また情報を発信できるようになりました。一方で、情報量が増えたことで、正確な情報を見極めることが難しくなっています。そのような中、市の公式ホームページは、市民が信頼できる情報を得るための重要な情報源の一つです。

会議の中で私たちは近隣市町村の公式ホームページを比較調査しました。その結果、大和市のホームページには多くの多言語による情報が掲載されていますが、見つけにくいという課題があり、外国人市民が必要な情報へ円滑にアクセスできるよう改善を図ることが必要であると考えます。

具体的には、次のような取組が考えられます。

- ・外国人市民が必要とする情報をまとめたページへの分かりやすい導線の整備（トップページ等）
- ・動画やピクトグラムなど、視覚的に理解しやすい情報提供の充実
- ・「やさしい日本語」への変換機能や多言語翻訳機能の活用

外国人市民の視点に立ったホームページ運営を進めることを求めます。

提言 2-3 外国人市民に必要な情報が確実に届くよう、情報発信の方法や周知手段の充実を図る。

1 多言語情報が届いていない現状

本会議で実施した調査では、外国人市民の多くが、生活ガイドやごみの出し方などの多言語資料、市役所や市立病院に配置されている通訳員、さらには協会の存在について十分に知らないことが明らかになりました。

せっかく整備された多言語情報も、必要とする人に届き、活用されなければ十分な効果を発揮できません。情報が届いているのか調査したり、広報内容の決定に外国人市民の声を生かしたりすることを検討してください。

また、ルールや禁止事項を伝えることは外国人市民の不安の解消に役立つ一方で、それだけでは「受け入れられていない」という印象を与える可能性もあります。利用できる行政サービスや地域の魅力、イベント情報なども併せて発信することで、地域への愛着や安心感の醸成につながると考えます。

2 継続的・多面的な情報発信

スマートフォンアプリによるプッシュ型通知や、動画、アニメーション、音声などを活用した情報発信は、外国人市民にとっても内容を直感的に理解しやすく、活用を希望する声が多く聞かれましたが、すでに「市公式 LINE」や「YouTube チャンネル」、「FM やまと」など、市が多様な情報発信手段を活用していることは十分に知られていません。

外国人市民に正確な情報を届けるためには時間がかかります。さまざまな媒体や機会を活用しながら、継続的かつ多面的な情報発信を行い、必要な情報が確実に届き、相談や行動につながる仕組みづくりを進めることを求めます。

3-1 子どもの教育（多様性教育）

大和市には多様な背景を持つ子どもたちが暮らしています。しかし、外国ルーツの子どもたちは、言語や文化、行動様式の違いなどから学校生活の中で孤立を経験しやすい状況にあります。

また、「周りとは何となく違う」「自分のルーツをどう受け止めればよいか分からない」といった戸惑いは、自己肯定感の低下や友人関係の形成の難しさにつながることがあります。そのため、アイデンティティの確立と自己受容を支える教育環境を整え、子どもたちが母語や母文化、自らのルーツに誇りを持てるようにすることが重要です。これは学校生活だけでなく、家族との関係づくりにとっても大切なことだと考えます。

本会議では、外国ルーツの子どもたちに関わるさまざまな経験が共有されました。日系人として自らのルーツをたどる旅が人生に大きな影響を与えたという話や、多様な国・地域にルーツを持つ生徒たちがお互いの文化や背景を教え合いながら過ごした高校生活の思い出が語られました。

一方で、外国ルーツの生徒として日本人の生徒とは別の教室で学ぶことに苦痛を感じた経験や、母文化の継承活動に取り組む中で、子どもたちが親世代とは異なる価値観やアイデンティティを持つようになってきているという声も聞かれました。また、親に代わって通訳を担うなど、子どもが家族を支える役割を担わざるを得ない状況も共有されました。

こうした経験が示すように、外国ルーツの子どもたちの思いや課題は一人ひとり異なります。

また、文化の多様化と世界の均質化が同時に進んでいる現代においては、表面的には似た生活様式を共有しているように見えて、異なる背景や価値観を持つ住民が身近にいます。そのため、子どもたちから、文化的な違いを可視化し共有することの重要性が指摘されています。それぞれの違いに目を向け、子どもたちが自らを大切にしながら成長できる学校づくりを進めるとともに、それを支える仕組みを自治体として整えていくことが重要です。

子どもたち一人ひとりの声に耳を傾け、その思いを受け止めながら、大和市全体で「ルーツを大切にできる学校づくり」を進めることを求めます。

提言 3-1-1 外国ルーツの子どもたちが置かれている状況を把握し、人権を守る。

外国ルーツの子どもたちの背景

外国ルーツの子どもたちは、自ら望んで来日したわけではありません。また、大和市においても、日本で生まれた外国ルーツの子どもたちが増えてきています。これら移民第2世代にとっての国籍や母語・母文化に対する考え方は、親世代のそれと同じではありません。また親に代わって通訳を務めた経験があるなど、ヤングケアラーとしての役割を振り分けられることもあります。

それでも、保護者は家族を含めて日本に来てチャレンジすることを選択しました。その選択が子どもにとっての幸せな将来につながるように、外国ルーツの子どもたちが置かれている状況を把握し、子どもたちの人権が守られる学校づくりの推進を期待します。

提言 3-1-2 ルーツや文化的背景を尊重し、多様性を認め合うことができる教育を推進する。

多様性理解が求められる時代

今後ますます多様化する日本社会や国境を越えて活躍するためにも、すべての児童生徒にとって、地域に暮らす様々な文化的背景を持つ人たちのことを知り、協力し合う方法を学ぶことは重要です。大和市の子どもたちは、すでに様々なルーツの子どもたちとともに学んでいます。近くにいる友だちのルーツからその違いに興味を広げることは、外国ルーツの子どもたちにとっても、友だち作りのきっかけにできたり、自分のルーツについて考えたり、自信を得たりする機会となり、良い影響があることが本会議の委員の語りからも明らかになっています。

この環境を生かし、大和市のどの学校に通っていても「多様性理解」が深まるような授業が受けられるよう、子どもたちが主体的かつ安全に自身のことを伝え合うことのできる大和市独自の授業プログラム作りや研修の実施を求めます。

そもそも、すべての子どもたちは、それぞれが多様で豊かな文化的背景を持っています。教育課題が山積する中ではありますが、一人ひとりその豊かさを大切にできるよう必要性を共有し、環境を整えるようお願いします。

3-2 子どもの教育（学校・地域・家庭の役割）

私たちは、外国ルーツの子どもを支えるとともに、すべての子どもの多様性を育む教育を推進するために、学校・地域・家庭がそれぞれどのような役割を果たすべきかに関心を寄せました。そこで、教育現場における多様性への対応や市民への啓発のあり方について議論を重ね、その内容を踏まえて、市教育委員会および外国人保護者への聞き取り調査を実施しました。

その結果、大和市では日本語指導をはじめとする外国ルーツの子どもへの支援が行われている一方で、外国人保護者の中には、言語の壁により学校の先生とのコミュニケーションを十分にとることがむずかしかったり、保護者や地域住民と交流する機会がなかったりする人もいることが明らかになりました。グローバル社会で重視される論理的思考力を育成するバカロレア教育についても検討し、導入に高いハードルがあることもわかりました。

また、教育、生活、地域活動に関する情報や機会に接している場合であっても、その多くは子どもや個人的なネットワークを通じて得られており、情報の理解度や地域との関係構築には大きな個人差が見られました。

こうした状況を踏まえると、外国ルーツの子どもたちを支えるためには、学校だけでなく、地域や家庭を含めた連携のもとで、多様性を尊重する教育環境を整えていくことが重要であると考えます。

提言3-2 外国ルーツの子どもとその保護者を支えるため、学校・ボランティア・家庭をつなぐコーディネート機能を充実させるとともに、親子が交流できる居場所づくりと、その運営を支える体制を整備する。

地域の社会資源とつなぐ必要性

会議での議論や聞き取り調査を通じて見えてきたのは、制度や支援の不足というよりも、「つながりの不足」という課題です。

外国人の保護者の中には、日本の教育制度や進路選択、特別支援教育などについて十分に理解できないまま、子どもの進路や教育に関する判断を迫られている人がいます。また、子どもが学校生活で困難を抱えていても、家庭と学校の間に通訳や仲介の役割を担う人がいないことがあり、状況が十分に共有されていない場合があります。

一方で、地域には日本語教室や居場所づくり、ボランティア活動などの社会資源が存在しています。しかし、それらの情報が必要とする家庭に十分に届いておらず、活用につながっていないケースも見られます。

こうした状況から、学校・ボランティア・家庭をつなぎ、必要な情報や支援につなげるコーディネート機能が求められており、行政が資金や場を提供し、枠組みづくりを主導するようお願いします。また、既存の社会資源を有効に活用するためにも、外国ルーツの子どもとその保護者を地域の支援や交流の場へつなぐ仕組みづくりを提案します。

Ⅱ 委員の振り返り

Ⅰ 参加のきっかけ

(外国人委員)

- ・大和市が自分を地域の一員として温かく受け入れてくれていると感じています。外国人として、また親として、外国人が日々直面するさまざまな課題を身をもって理解しています。大和市がその課題に真剣に向き合い、改善しようとしていることを知ったとき、「自分たちの声が届いている」と感じ、ぜひ力になりたいと思いました。
- ・大和市で生活する中で、さまざまな国の方々と出会い、多文化共生の大切さを実感したので、自分の経験や語学を活かしたいと思いました。
- ・きっかけは会社の上司からの推薦でした。もともと多文化共生というテーマには関心があり、自分自身も外国にルーツを持つ立場として、大和市の中でどのように多様性が受け入れられ、活かされていくのかを知りたいと思いました。
- ・息子が小学校に入学したことをきっかけに、自分が育った環境とは全然違うと感じ、日本の学校だけではなく、子育てや生活面などについても、もっと知りたいと思いました。

(日本人委員)

- ・参加を決めた頃は、日本に住む外国人が増え、埼玉県などでの外国人のふるまいと周りの反応が SNS などのメディアで話題になった時期でした。まずは実態を把握しないことには始まらないと思いました。
- ・近所でたくさんの外国人学生や労働者を見かけるようになったため。
- ・マレーシア、中国、インドへの海外赴任経験を通じて、多少なりとも異文化理解と協働の重要性を実感したことが参加のきっかけです。
- ・以前より多文化共生・外国人支援に興味があったため。
- ・目的としては、子どもの教育の充実化や国際意識を子どものうちから持てることが重要と思い、大和市でもそのような取り組みができると良いと思いました。勉強もそうですが、生活や意識含め豊かな発想や考えが持てる将来を描ける未来になってほしいと思ったからです。大和市は米軍基地があり、多国籍（これは後ほど知る）な背景があるので、この土地ならではの文化をより良い方向にシフトできればと思ったのがきっかけです。
- ・ずいぶん前から、大和市には一見しただけでも外国の方だとわかる市民が増えたと感じていました。十数年間、国際化協会や法テラスの通訳を通し、医療現場、市役所、学校、警察署などで、外国籍の方々のニーズや、言葉のサポートによって安心される姿を目の当たりにしてきました。本会議の委員になることで、外国人市民の方々と日本の方々が一歩でも共生に近づけるお手伝いができればと思いました。昨今、分断が進むような声の大きな人たちが、寛容とは反対の社会を謳うニュースを目にします。自分と異なる価値観に直面したときに、排除や攻撃ではなく、共生の可能性を模索する姿勢こそが、これからの成熟した社会に不可欠です。それを決してやめてはいけない。誰一人取りこぼさない社会は、

政治家にならなくても、人が人によって人になる世界を、近所の方々とのつながりから実現していけると思います。だから私にできることをやろうと思いました。人類学の歴史からも学べますが、人間社会は固定されているものではなく、常に世界との接触と変化の中でミックスされてきました。だから今現在のベストを委員の皆さんと探ることは、最も人間らしいプロセスだと思ったので、この会議への参加を決めました。

2 印象に残ったこと

(外国人委員)

- ・毎月の会議がとても楽しみでした。
- ・多文化共生は特別なことではなく、日常の中の小さな出会いや気づきから生まれるものだと感じました。委員の皆さんとの意見交換やサミットなどを通して、「一人ひとりの違いが地域の宝になる」ということを実感し、さまざまな視点に触れられたことがとても印象的でした。
- ・参加者がそれぞれの視点から語られる経験や課題が非常に興味深かったこと。
- ・「多文化共生」という言葉が、単なるスローガンではなく、具体的な生活課題や制度の話につながっていると理解できたこと。
- ・外国人として、情報を得ることが難しく、また、どこから正しい情報を得ればよいのかわからないということです。

(日本人委員)

- ・大和市には想像以上に外国人市民がいて、日常生活ではほとんど見かけないが、北部が最も外国人市民の人口が多いこと。
- ・大和の阿波踊りは有名なこと。全然知りませんでした。
- ・大和市に住んでいる外国人がより快適にとかどんなことで困っているのか聞いて解決策を考え実行しました。ゴミの捨て方が良くわからない人には、出す曜日の前日に家に行って一緒にまとめたりして喜ばれました。私たちには簡単な事でも外国人には難しい事もあるとわかりました。
- ・外国籍の方々、日本国籍の私たちの双方とも、より良い市民生活を送るために話し合えば実生活に即した具体的なアイデアが結構たくさん出てくること。
- ・特に外国人委員の自己紹介を拝聴して、日本での生活における大変さを感じる一方で、日本という国がやはり安全であること、比較的寛容な国民であること
- ・当事者の外国人市民の声を聴く良いチャンスとなりました。
- ・当事者から外国人を支援したいと思う人がおり、組織化につながると確信しました。
- ・他市や県の多文化共生・外国籍市民会議と異なり、日本人が委員のメンバーには入れることは大和市の特徴と思いました。
- ・教育水準を上げることが、外国人ならび、日本人の将来の幸せのためになると思うという

のが私の根底にあり、バカロレア教育やイマージョン教育などの導入、大学の誘致などの方針を立てたい、またはスモールスタートでも始めたいという考えがありました。

実際には、市との話し合いなどを経て、文部科学省への調整や大和市財政難の都合もあり、ローコストかつ手短にできそうなことという落とし所が妥当という結論に至りました。

なので、今回は、市民の巻き込んだ、多文化コミュニティ施策を行える環境づくりといった提案になりました。

少し想定と違った結論ではありますが、そのような活動が元となり、盛り上がることによって、文化の醸造につながればと思っています。こちらの提案が通ってくれると良いなと思っています。

3 気づいた課題

（外国人委員）

- ・活動を通じて、大和市は日本の中でも特に住みやすい都市の一つであることを改めて実感しました。行政が外国人住民を含むすべての市民のために真摯に取り組んでいる姿勢は、他の自治体にとっても良い手本になると感じています。
- ・多文化共生に対する意識や取組には、まだ地域や学校、個人によって差があると感じました。特に、外国ルーツの子どもや保護者への情報や支援を十分に届けるためには、学校・地域・行政の連携をさらに深める必要があると感じました。
- ・外国人市民が行政情報にアクセスしづらい状況がまだ多く残っていること。情報発信の多言語化だけでは不十分で、「どう届けるか」「どう理解してもらうか」という仕組みづくりが必要だと感じました。協会の役割やサービスが、外国人市民に十分に届いていないと感じました。日本語教室、翻訳・通訳支援、生活相談、イベントなど、協会が提供している有益な取り組みが多いにもかかわらず、外国ルーツ住民の認知度がまだ低い。
- ・日本の職場や人間関係における暗黙のルール。

（日本人委員）

- ・市としては様々な言語に対応した資料や窓口を用意しているが、実際には利用されない。知られていない。
- ・外国人市民は「自分たちのルーツを知ってほしい」とイベント等に参加するが、日本人市民は「問題を起こさないでくれたらそれでいい」と比較的無関心なこと。大和市としては、協会を始めとして外国籍の方々に寄り添う政策を沢山提供しているが、なかなかうまく活用されていないという事に気づかされました。声を挙げたくてもその術が分からない外国籍の方々が、たくさんいるという事にも気づく事ができました。
- ・外国人が生活するにあたって、やはり言葉の壁があることや生活に必要な情報がとりづらいことに気づきました。
- ・外国人市民が相互に支援し合える、インフォーマルあるいはフォーマルな社会資源が必要

と思いました。

- ・協会が新規に来る外国人市民に知られていないことが残念です。広報の良い方法はないでしょうか？まず、第一にこのような会に参加する委員が皆さん聡明でしっかり考えを持っておられる方が多く、良い意味で驚きました。ベトナムや中国の方含め、約 88 か国もいることを知らずにいたので、この会議に参加して改めてその辺りの認識をもてました。ここでまず、イベントや宣伝をしっかりとしないと、多文化の発信や認知は難しいと思いました。

そして、今後、もし、在日外国人が増えていったときに、見えないままどんどん増えていくと、在日外国人との壁が大きくなり、問題になったりすると思うので、その意味でもお互いのことをよく知り、そして良好な関係を築けるように努力することが大事だと思います。

- ・参加する中で気づいたことは、大和市には財政的な余裕があまりないということです。予算をかけることができれば、ワクワクするようなアイデアは無限に広がると感じましたが、実際には市の財政状況を踏まえて現実的に検討する必要がありますがありました。また、教育制度の改革が難しい点も課題です。文部科学省の方針や要項が変わらなければ、地方自治体レベルで教育を大きく変えることは容易ではないと感じました。未来への投資という視点から考えると、いずれの分野にも意識が十分に届いていないと思いました。

4 今後に向けて

（外国人委員）

- ・引き続き大和市に貢献し、「誰もが安心して暮らし、学べる街」として、大和市が日本一の都市になることを心から願っています。この会議で学んだこと、そしてこの 2 年間で築いた絆を大切にしながら、これからも積極的に関わりたいと思います。
- ・今後は、子どもたちが多様な文化の中で安心して学び、成長できる環境づくりに、引き続き関わっていきたいと思います。学校だけでなく、地域や市民活動の場も活かしながら、「共に学び、共に育つ（共育）」の視点で取り組み、小さな行動や出会いを大切にしながら、多文化共生の輪を広げていければと思います。
- ・外国市民が相談しやすい環境づくりや、情報の橋渡し役として貢献できることを探していきたい。

（日本人委員）

- ・公共サービスへのアクセスは、日本人市民にとっても課題であると感じます。公式 LINE がもっと活用されたら良いと思います。日本人市民、外国人市民がお互いに「共生する」という意識を持ってほしい。お互いに、というのが大切で、この 2 年間でみなさんと話しているほとんどが外国人に寄り添うものでした。外国人のルーツを理解するのも良いが、ここは日本。まずは日本のルール、マナー、言語を学び、日本での生活に馴染んでか

らの話だと思います。外国人が「自分たちを理解してほしい」とだけ言っている間は、共生は難しいと正直に感じました。同時に、日本人も「外国人だから」という偏見で接するのは良くないので、フラットに見る努力をするべきだと思います。

- ・市民生活、防災、国際理解、教育のどれを考えても正確な情報発信の在り方を最優先に考えるのが大切だと感じました。誰でも欲しい情報に容易にたどり着けるシステム作りで成功している他府県を参考にして、改善していけるといいと思いました。
- ・どのように外国人に必要な情報が届けられるか、これが今後とも課題になっていくと感じます。
- ・行政にばかり頼るのでなく、外国人市民が主体的に活動することが今後求められると思います。その組織化の支援を行政や協会が行っていただきたいと思います。
- ・提案ではコミュニティの創設とそれに伴ったボランティア団体の創設ができればと思っています。もしこの案が通ったら、それに向けて、市や協会の皆さんと共同で今後の活動について進められればと思っています。
- ・多文化共生会議の会議自体に、毎回毎回感動し、とても印象深いものでした。ファシリテーターの存在で心理的安全性が確保されていました。グループワークでは有意義な意見交換が行われ、対話に大きな価値がありました。特に印象に残っているのは、国際化協会の職員の皆さんと菊池先生が、毎回丁寧に会議をプランニングして、全員が安心して議論できる環境を作ってくださっていたことです。会議1つ1つに強い熱意と高い専門性を感じ、私は毎回深く感動していました。この2年間を通じて改めて実感したのは、大和市において今後さらに外国人市民が増えていく中、国際化協会の存在は今以上に不可欠になっていくということ。この会議自体が、多文化共生を実現するための1つの理想的なモデルだったと感じています。日本では今後、外国人労働者の増加がさらに進み、私たちの子どもたちが社会に出る2030年代から2040年代には、外国人と一緒に働くことがごく当たり前になることが予測されています。私の子どもたちが社会に出る頃、外国人と共に働く確率はほぼ100%です。そのためにも、この会議をどうしても子どもたちも見てほしかったので、外国人市民サミットを見学してもらいました。こんなに素晴らしい会議を、小学生や中学生、全員に見てほしいと強く強く思いました。大人が対話し、協力しあって共生の道を探る姿は、何よりも大きな意味を持つ本物の「教育」です。大人になってから知識として異文化理解を学ぶのではなく、子どもの頃から多様な価値観を五感で体験し、理解し合う経験を積み重ねていくことが重要だと感じます。大和市で将来的に、子どもたち自身が主体となり、国籍や文化の違いを越えて地域や社会について話し合う「子ども版多文化共生会議」のような取り組みを定期的に行うことができれば、大きな意味があるのではないのでしょうか。子どもたちが小さい頃から対話を通して多様性を学び、違いを自然に受け入れる経験を積み重ねていくことができれば、その世代が大人になった時、大和市だけではなく日本全体で、誰もが自然に支え合える共生社会が必ず実現していくはずです。この2年間の会議で築かれてきた価値ある取り組みを、次の世代へつないていくことこそが、これから最も大切な取り組みだと私は感じます。

Ⅲ 会議の概要

1 目的

外国人市民を取り巻く地域の課題について協議できる場を設定し、外国人市民が日本人市民と同じ地域に暮らす住民として共生・協働できる地域づくりのために必要な取り組みを検討する。

2 委員

満18歳以上で市内に在住・在勤・在学・在活動している方 16名

3 任期

2024年8月～2026年7月（2年間）

4 ファシリテーター

菊池哲佳准教授（明星大学）

5 開催状況

回	日時	内容
第1回	2024年 8月31日（土）10:00～12:00	委嘱状交付、会議概要、ワークショップ多文化共生のまちづくり「いいとこさがし」
第2回	2024年 9月29日（日）10:00～12:00	外国人市民サミット：グループミーティング（外国人の生活サポート、外国人と日本人の交流、日本語学習、災害）
第3回	2024年 12月7日（土）10:00～12:00	意見交換（みなさんの居場所はどこですか）
第4回	2025年 2月8日（土）10:00～12:00	意見交換（多文化のつながり・ネットワーク・居場所、学びたいテーマ・ゲストスピーカーなど）
第5回	2025年 4月12日（土）10:00～12:00	多文化共生の基本的な考え方、これまでの多文化共生会議について
第6回	2025年 6月28日（土）10:00～12:00	NPO 法人在日外国人教育生活相談センター・信愛塾 大石文雄 事務局長の講話
第7回	2025年 9月28日（日）10:00～12:00	外国人市民サミット：グループミーティング（子どもの教育、情報提供、コミュニケーション支援）
第8回	2025年 11月8日（土）10:00～12:00	前回の振り返り（課題と解決案の整理）、提言内容の検討

第9回	2025年 12月6日(土) 10:00~12:00	委員による調査報告、提言内容の検討
第10回	2026年 2月14日(土) 10:00~12:00	委員による調査報告、提言内容の検討
第11回	2026年 4月11日(土) 10:00~12:00	委員による調査報告、提言内容の検討
第12回	2026年 6月13日(土) 10:00~12:00	提言案読み合わせ



外国人市民サミット



会議の様子

IV 資料

I 委員名簿

No.	氏名	出身・ルーツ
1	荒谷 留架	日本
2	石塚 正江	日本
3	大根田 純一	日本
4	大柳 よしお	ペルー
5	川村 佳織	日本
6	岸本 佳子	フィリピン・日本
7	キップランガト ジャスタス（委員長）	ケニア
8	佐々木 優韻	中国
9	佐藤 愛	日本
10	曹 亮亮	中国
11	孫 菱壑	中国
12	田口 雅教	日本
13	渡久地 シズコ	ペルー
14	ビジュアル アイコ（副委員長）	ペルー
15	平田 美智子	日本
16	別井 里緒	韓国・日本

2 会議設置要綱

(目的)

第1条 公益財団法人大和市国際化協会（以下「協会」という。）は、以下の目的を達成するために、大和市から委託を受け、第6期大和市多文化共生会議（以下「会議」という。）を設置する。

- (1) 大和市における多文化共生社会の実現
- (2) 外国人市民の地域参加の促進
- (3) 日本人市民と外国人市民が共生・協働するための課題の解決に向けて協議できる場の設定

(定義)

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 多文化共生

国籍、民族、性別、年齢などが異なる様々な文化や個性を持った人々が、互いの違いを認め合いながらも、社会の一員として社会全体を豊かにしていくこと

(2) 外国人市民

日本以外の国籍を有する者の他に、日本国籍を有していても、外国に文化的背景を持つ者を含む。

(所掌事務)

第3条 会議は、第1条の目的を達成するために、次に掲げる各号について調査審議し、協会理事長に対してその結果を報告する。

- (1) 大和市の多文化共生を推進する環境の整備に関すること
- (2) その他必要と認められる事項

(構成等)

第4条 会議は次の各号のいずれにも該当する者の中から日本人市民及び外国につながる市民およそ12名程度の委員で構成される。

(1) 年齢満18歳以上である者

(2) 大和市に在住・在勤・在学・在活動している者

2 委員の任期は2年とする。

3 委員は公募により選任し、協会理事長が委嘱するものとする。

(委員の責務)

第5条 委員はすべての市民のために職務を遂行し、特定の国や民族・組織の利益を代表しない。

2 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いたあとも同様とする。

(委員長及び副委員長)

第6条 会議に、委員長及び副委員長をおき、委員の互選により定める。

2 委員長は会議を代表し会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、また委員長がかけたときはその職務を代理する。

(運営)

第7条 会議は、委員長が招集し、その議長を務めるものとする。

2 会議の運営は、自主的な運営により行われるものとする。

3 会議は、必要に応じて部会、ファシリテーターを置くことができる。

4 会議は原則として公開とする。

5 委員長は、2年間の任期中の活動をまとめて協会理事長に報告しなければならない。

(推進体制)

第8条 協会理事長は、前条第5項の規定による報告を受けたときは、大和市に報告するとともに、これを市民に公表する。

(庶務)

第9条 会議の庶務は、協会事務局において処理する。

(補足)

第10条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営について必要な事項は別に定める。

附則

この要綱は、2024年8月1日から施行する。

3 日本人市民へのヒアリング結果

- ・2025年12月3日（水）実施（回答数15件）
- ・高座渋谷駅東口において乗降客を対象に街頭インタビューを行った。

（質問と回答の概要）

1) 回答者の年代

- ・10代 4名 / 20代 0名 / 30代 1名
- 40代 1名 / 50代 2名 / 60代 3名 / 70代～4名

2) 外国人市民と関わる場面

- ・ゴミ出し／あいさつ・会話／町内会・自治会／学校・保育園・幼稚園 3名
- ・仕事 2名
- ・商店・飲食店／病院 など 1名

3) 困った・戸惑った経験

- ・ある 7名 / ない 8名
- ・言葉が通じなかった 4名
- ・ルールを知らない様子だった 4名
- ・文化・考え方の違いを感じた 2名

4) 困った・戸惑ったとき、市や自治会への相談の有無

- ・相談した 2名 / 相談していない 7名

5) 外国人市民から相談を受けたり、助けを求められたりした経験

- ・経験がある 3名 / 経験がない 12名

6) 外国人市民にルールやマナーを教えた経験

- ・伝えたことがある 4名 / 伝えたことがない 11名

7) 外国人市民とのコミュニケーションであつたらいいもの

- ・やさしい日本語の案内が増える 5名
- ・図解・イラストの地域ルール説明 5名
- ・市の相談窓口（多言語／やさしい日本語）の拡充 4名

4 外国人市民へのヒアリング結果

- ・2025年12月7日（日）～19日（金）の期間中に実施（回答数20件）
- ・市内飲食店の利用客、市内医療機関を訪れた患者を対象に聞き取りを行った。

（質問と回答の概要）

1) 回答者の来日年数・出身国

- ・1年未満 0名 / 2年 2名 / 3～5年 0名 / 5～10年 1名
10～20年 0名 / 20年以上 17名
- ・ペルー 12名 / ベトナム 6名 / ミャンマー 2名

2) 日本の生活ルールやマナーをどこから知ったか

- ・学校・日本語教室 8名 / 市役所の案内 5名 / 家族・友人 4名 / スマホ・SNS 2名

3) 日本の生活で困ったこと

- ・言葉が通じない 7名 / 特になし 7名 / ゴミの出し方 4名 / あいさつの仕方 4名

4) 日本人との関わりで困った・戸惑ったこと

- ・言語や言葉のすれ違い / 外国人だからと美容室を断られた / 強制的に残業をさせられた
- ・母国に帰れと言われた / 家の中に誰もいないのに騒音でうるさいと言われた
- ・仕事中に日本語で話をされても理解することができず、相手が怒ってしまったことがある

5) 困ったり戸惑ったりしたとき、市に問合せた経験

- ・問い合わせたことがある 3名 / 問い合わせたことはない 17名

6) 日本の生活で役に立った情報やサービス

- ・翻訳アプリ 9名 / 市役所の案内 4名 / 地域の日本語教室 2名

7) 市のホームページを見ることはあるか

- ・よく見る 1名 / ときどき見る 1名 / ほとんど見ない 1名 / まったく見ない 17名

8) 生活に関する情報源

- ・友人・家族 10名 / 学校・地域 5名 / SNS 4名 / 仕事先 3名 / 市のホームページ 2名

9) 普段使う SNS

- ・LINE 19名 / Facebook・Messenger 17名 / WhatsApp 12名 / Youtube 12名
TikTok 11名 / Instagram 10名 / Zalo 4名 / X（旧 Twitter） 2名

5 市広報課へのヒアリング結果

- ・ 2026 年 1 月 14 日（水）実施
- ・ ベテルギウス北館において市広報課職員に聞き取りを行った。

（質問と回答の概要）

1) 多言語対応の現状と課題

- ・ 市ホームページでは、英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、ベトナム語、タイ語の 9 か国語に自動翻訳対応している。
- ・ 「広報やまと」は翻訳対応を想定し、ホームページ上にテキストデータを掲載。
- ・ 自動翻訳の精度確認が難しく、「正確に伝わっているか」の担保が課題。

2) 情報発信の手段と到達状況

- ・ 外国人市民に対しては、紙媒体・ウェブ・SNS など複数の手段で情報発信を行っているが、広報に対する意見や要望が少なく、実際の到達状況や効果の把握が難しい状況。
- ・ 特に、パソコンやスマートフォンを利用しない層に対しては、情報が届きにくい可能性がある。

3) 意見収集とコミュニケーション

- ・ 外国人市民を含む市民の意見は、アンケート等を通じて収集する機会がある。
- ・ 外国人市民からの提案については、日本人と同様に丁寧に対応することで、信頼関係の構築に努めているが、継続的・体系的に外国人市民の声を反映する仕組みは限定的。

4) 他自治体との比較・独自性

- ・ 他自治体の先進事例の参照や、市独自の取り組みは特になし。

5) 今後の方向性

- ・ 多文化共生会議からの提言等を踏まえ、可能な範囲で対応を進めることで、外国人市民にとってより届きやすい情報発信を行いたい。

6 市教育委員会へのヒアリング結果

- ・ 2025 年 11 月 28 日（金）実施
- ・ ベテルギウス北館において市教育委員会職員に聞き取りを行った。

（質問と回答の概要）

1) 多様性・インクルージョン教育の実施状況

- ・ 市内共通のカリキュラムはなし。県のガイドラインを参考にして各校で実施。
- ・ 柳橋小などの指定校では校内支援体制を構築。

2) 特別クラス・バカロレア認定校などの導入の可能性

- ・ 公立校での特設クラス導入は文科省が認めていない

3) 学校と地域の連携

- ・ NPO やボランティアによる支援（日本語指導・通訳・母語支援など）は実施中。
- ・ 多文化学習より日本語支援が中心。

4) 多文化イベントの実現可能性

- ・ 市の財政難でイベント事業は縮小傾向。
- ・ 市後援や協賛形式での民間主導イベントには可能性あり。

5) 教員への支援・相談体制

- ・ 教員向け研修、気になる子の支援会議で情報共有。
- ・ 渋谷小に日本語支援センター「スマイル」を設置。

6) 日本語学習・教科学習支援

- ・ 「スマイル」内プレクラスで来日間もない編入生の基礎日本語を支援。
- ・ 母語も大切にする姿勢を重視。

7) 市民・地域への啓発

- ・ 生涯学習講座で市民向けに多文化共生をテーマとした講座を開催。
- ・ 市のホームページにも掲載しているが、見つけにくいという声あり。

8) 子ども主体の学び・意思決定

- ・ 子ども同士の関わりを通じた学びが効果的。
- ・ 意見表明の機会は少なく、学校レベルでの意思決定は課題。

9) 外国文化の紹介・共生教育

- ・ 編入生とその保護者向けに 8 言語の学校生活ガイド「楽しい学校」を配布。
- ・ 多文化紹介の仕組みは学校ごとで対応に差あり。

7 外国人保護者へのヒアリング結果 I

NO	1	2	3
ヒアリング日時	2026/3/11 水	2026/3/12 木	2026/3/12 木
聞き手	委員	委員	委員
1. あなたの出身国	コロンビア	タイ	中国
2. あなたの年齢	(省略)	(省略)	(省略)
3. 日本に住んで何年目ですか？	10 年以上	10 年以上	1 年未満
4. お子さんの学年	(省略)	(省略)	(省略)
5. 回答者の性別	(省略)	(省略)	(省略)
1. 言語と言い換えの壁（コミュニケーション）			
1-1. 学校からのお手紙を読んで、何をすればいいか自分一人で分かりますか？	あまりそう思わない	どちらでもない	どちらでもない
理由や具体的なエピソード	アプリ（すぐる）で翻訳機能を使えるので助かる	GoogleTranslate を使用。わからないときは日本人の夫に聞く。	わかることもあるが、わからないこともある。夫に聞いてわかることも多い。
1-2. 欠席連絡や連絡帳の記入を、ストレスなくできていますか？	少しそう思う	少しそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 2	少しできるが、夫が話せるのでお願いすることが多い。	アプリ（すぐる）がタイ語になっているのでわかる。PDF 文書は日本語のままなのでわからない。ふりがながあっても意味がわからない。	いつも夫が連絡しているが、自分がやるとなるとたいへんだろうと思う。連絡帳はあまり書いていない。アプリ（すぐる）はすごく便利。
1-3. 保護者会や面談のとき、通訳なしで先生の話を理解し、自分の考えを伝えられますか？	あまりそう思わない	少しそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 3	夫に任せるが、一回だけ一人で行ったことがある。全体の保護者説明会では、手を挙げて質問できないので厳しい。	理解できずに返答に困るときがある。何を話したらいいのかわからない。	先生の話は全然わからない。いつも夫と一緒にいく。夫がいなときは通訳をお願いしている。
2. 社会的つながりと居場所（ネットワーク）			
2-1. 近所に、日本語などで楽しくおしゃべりができる日本人の知り合いがいますか？	少しそう思う	すごくそう思う	全くそう思わない
理由や具体的なエピソード 4	息子の友達のママと話すはまだ不安がある。もっと伝えたいこともあるが、話しが伝えきれない。ちゃんと話せているかちょっと心配で、その結果少ししかしゃべれない。近所の人や習い事とかで一緒になったママ同士で話す。	近所の人とその方の庭で BBQ するときもある。おじいさん、おばあさんはとてもやさしいし、楽しい。タイ料理をおすそわけすることもある。	まだいない。夫は仕事の仲間がいる。
2-2. 悩み事があるとき、家族以外で地域に相談できる相手や場所を知っていますか？	少しそう思う	少しそう思う	全くそう思わない
理由や具体的なエピソード 5	市の相談窓口には日本人でスペイン語がわかる方がいて相談できる。	あまり悩みがない。大和市保健福祉センターの相談先、電話番号は知っている。	まったく知らない。また必要を感じたことはない。

2-3. 放課後や週末に、親子で安心して遊びに行ける場所を知っていますか？	すごくそう思う	すごくそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 6	公園・泉の森	図書館、近所の公園、ゆとりの森がすごくいい、BBQ もゆとりの森でできる。近所のおじいちゃん、おばあちゃんは家の庭でやる。ママ友とはゆとりの森でBBQをする。	中央林間図書館、泉の森でジョギング(子どもと一緒に)、家族で温泉などに旅行
3. 教育システムへの適応（子育て・学習支援）			
3-1. お子さんの宿題の内容を見て、家で勉強を教えてあげることができますか？	どちらでもない	全くそう思わない	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 7	算数とかは OK、国語や漢字は厳しい。お姉ちゃんに聞いてやることもある。	漢字がむずかしくて読めない。音読は聞いているだけで意味がわからない。	できるけど中国語で指導するので、国語以外なら大丈夫。回答を教えるのではなく、回答方法を案内する。中学校の内容も予習している。
3-2. 日本の学校のルール（部活動、持ち物、掃除など）を正しく理解できていますか？	どちらでもない	すごくそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 8	遠足の持ち物などはアプリ（スグー）をみて、判断する。夫は一番日本語ができる。お姉ちゃんは書いたりできるし、日本語のテレビも見るが、弟はスペイン語メインなので日本語が少し心配。ただし、お姉ちゃんも社会・理科はむずかしい。	以前はあまりわからなかった。幼稚園から友だちの子どもに学校のことを教えてもらって感謝の気持ちを込めてチョコをわたしたことがあるけれど、学校の先生から手紙をもらって注意されたことがある。	最初は衝突があったけど、徐々に慣れてきた。日本の学校のルールはわからないことで、周りの生徒から厳しく注意を受けることがあり、けんかもよくあった。子ども自身が理解できていないことに怒って、いらだっていた。先生はとてもやさしい。給食を食べるとき、中国ではどんな形で食べても大丈夫で、例えばごはんはスープを入れても OK だけど、日本では食べ方も友だちに注意される。中国では大きい声で話すのに、クラスメイトから声が大きいことをとがめられた。また中国では千人の前で英語スピーチしたこともある。友だちから注意されることはあっても先生から注意されることはない、日本の先生はとてもいいと思う。中国出身である自分の子どもに対してどういう態度をとればいいのか、クラスメイトに考えさせる場面もつくってくれた。
3-3. お子さんの進路（高校受験や塾など）について、情報を集めることができますか？	全くそう思わない	どちらでもない	あまりそう思わない
理由や具体的なエピソード 9	先生と少し話した。	今はあまり考えていない。まだわからない	情報はちょっと不足している。中学校は公立。高校では私立を考えている。塾に行くことになると思う。中国では 53 人中 51 人が塾に通っていた。学校は 7:00～21:30 でずっと勉強。日本の学生は幸せ過ぎる。
4. 心理的・情緒的状況（メンタルヘルス）			
4-1. 自分もこの地域をつくる一員（仲間）だと感じていますか？	少しそう思う	どちらでもない	少しそう思う
理由や具体的なエピソード 10	大和はすごい大事。以前は県外にいた。人がいい。国際化協会、市	近所の公園に花壇、ガーデンがある。お花好きなボランティアが6	慣れていないので自分はまだボランティアとかできないけど、日

	役所のイベントや学校の先生とか支援が多い。大和の阿波踊りやシリウスでのロボットのイベントなど参加できて嬉しかった。大和市を選んだのは大学と仕事の選択肢で東京の近くに行きたかった。友達が和南市にいたので、そこで少し友達の家にいて、そのあとに本格的に引っ越した。	人くらいのメンバー。近所の女性。花が好き。コミュニティになっており、公園のガーデンの花を手入れしている。メンバーはおばあちゃんが多い。	本語できるようになったら、いろいろ参加したい。
4-2. 自分の得意なこと（料理、文化など）を地域の人に披露したり、教えたりしたいですか？	あまりそう思わない	すごくそう思う	少しそう思う
理由や具体的なエピソード 11	そこまで思わない	やりたいけど、日本語がむずかしいから。ママ友もタイ料理が好き。隣の家の方だけだが、タイ料理をおすそ分けしたことがある。	ずっと仕事をしてきたので料理はできない。中国では仕事第一の生活だった。もし日本語ができるようになれば、中国語などを教えることを教えたい気持ちがある。
4-3. お子さんの前で、言葉の壁を気にせず、自信を持って親として振る舞えていますか？	あまりそう思わない	すごくそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 12	もっと日本語を勉強したい。毎日そのことを考える。勉強をするには、話す機会をいっぱい作るのと上達すると思う。考えていることの 30% ぐらいしか伝えられない。	子どもによく怒るのでママ怖いと言われる。タイ語でやめてなど、いろいろと注意する。心配だから。友だちといっしょにコンビニに行きたいというけど、わたしが反対しても夫がいいよと言ってしまふ。子どもが携帯を買ってほしい、などと言うこともある。	料理以外は自信がある。
5. 生活の安全と情報格差（セーフティネット）			
5-1. 災害が起きたとき、どこに逃げればいいのか、情報をどう得るか知っていますか？	あまりそう思わない	すごくそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 13	近所の人から情報が来たがあまりわからない。	夫に聞く	すごく知っている。夫もわかっている。
5-2. 体調が悪くなったとき、症状を伝えられる病院やサポートを知っていますか？	あまりそう思わない	少しそう思う	少しそう思う
理由や具体的なエピソード 14	総合病院に行く、小児科クリニックに行くが、大事なことは夫と行く。	病院にいきたいとき、日本語のボランティアの先生と一緒にいったことがある。今は夫と一緒に行く。	子どもを小児科に連れて行ったことがある。
5-3. 公的な支援（手当や補助金など）の情報を、漏れなく受け取れていますか？	すごくそう思う	どちらでもない	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 15	国際化協会に聞きにくる。	夫が確認する。	市役所からのおしらせは読めている。すぐ振り込んでくれた。学校の手伝いなど日本のシステムはすごくいい。
ここまでご回答ありがとうございます。何か今後やってほしいことなどありますか？	日本の社会文化統合。日本の政府が外国人を排除する動きがありそうなので、それが少し心配。外国人でも日本人でも、どちらも過ごしやすい社会がいいと思う。	タイの人向けに Youtuber をしている。時間があるので一人で旅行をしてタイの人に日本のことを伝えたい。日本の料理をつくったりしたい。	スイミングなど子どもの習い事を知りたい。中学校の部活はテニス部を考えている。子どもの意見を尊重したいと思っている。

7 外国人保護者へのヒアリング結果 2

NO	4	5	6
ヒアリング日時	2026/3/18 水	2026/3/25 水	2026/4/3 金
聞き手	委員	委員	委員
1. あなたの出身国（国籍）	中国	フィリピン	ベトナム
2. あなたの年齢	（省略）	（省略）	（省略）
3. 日本に住んで何年目ですか？	10 年以上	10 年以上	3 年以上～5 年未満
4. お子さんの学年	（省略）	（省略）	（省略）
5. 回答者の性別	（省略）	（省略）	（省略）
1. 言語と言い換えの壁（コミュニケーション）			
1-1. 学校からのお手紙を読んで、何をすればいいか自分一人で分かりますか？	少しそう思う	全くそう思わない	少しそう思う
理由や具体的なエピソード	アプリ（すぐー）を使えば理解できる。	アプリ（すぐー）で英語になるのすごく助かる。でも紙でお知らせをもらうこともあり、それは全然わからない。紙のときは GoogleTranslate を使う。ルビをふっけていても意味がわからない。	アプリ（すぐー）で翻訳できるのすごく助かる。最初のあいさつ文など、ていねいな言葉はわからないけど、すごくきれいな言葉だと思ひ、日本語の勉強になる。
1-2. 欠席連絡や連絡帳の記入を、ストレスなくできていますか？	すごくそう思う	あまりそう思わない	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 2	わからないときは子ども（次男）に確認すると教えてくれる。	電話できるので欠席のときは学校に電話している。最近ではアプリ（すぐー）を使うようになった。以前は連絡帳のノートがあり、担任の先生が書いた手書きの文章は読めなかった。自分が連絡帳ノートに書くのはむずかしいので、質問があるときは電話した。書くときは英語。現在の担任は英語ができる先生なので英語でやりとりしている。	アプリ（すぐー）があり、すぐかんたんにできる。以前は電話でしていた。
1-3. 保護者会や面談のとき、通訳なしで先生の話を理解し、自分の考えを伝えられますか？	あまりそう思わない	あまりそう思わない	少しそう思う
理由や具体的なエピソード 3	先生の言葉は理解できるが、自分の話す日本語を理解してくれていないと感じる。通訳がいないと伝わらない。日本語だけの問題ではなく、中国の文化、表現も影響があると感じる。	通訳なしだと、聞いてわかるのが半分くらい、言いたいことも半分くらい。授業参観に行ってもよくわからない。先生の話は早いし、話す言葉がむずかしい。質問があっても日本語で話すのはむずかしいときがある。先生たちが翻訳アプリを使うこともある。子どもが2～3年生のときは通訳が来たけど、リクエストしなかったので4～5年生は通訳なしだった。通訳がいる方が本当はいい。	三者面談の場合、通訳は必要ないが、保護者会のような全体会の場合、7 割くらいの理解にとどまる。面談のとき、先生は外国人だからということできつくり、かんたんな言葉で話してくれる。他の先生も相談するときに、ゆつくり話してくれて、配慮してくれる。市役所の人もていねいに親切に対応してくれるので感謝している。自分の国とは違ひと感じるところ。話すのは勇気が出ないのでみんなの前で質問するのはむずかしい。あとで先生に個別に聞く。他の保護者が具体的に細かいことを聞いてくれると参考になる。
2. 社会的つながりと居場所（ネットワーク）			
2-1. 近所に、日本語などで楽しくおしゃべりができる日本人の知り合いがいますか？	全くそう思わない	全くそう思わない	すごくそう思う

理由や具体的なエピソード 4	自分の性格かもしれないが、あまり交流したいと思わない。最初の1歩、どうしても自分からは話さない。相手から話しかけられたら応じるけど。日本に住んでいる中国人の友だちがいる。何でも話せるけど住んでいる場所は遠い。	クラスメイトのお母さん、あいさつくらいで話はしない。自分からは話しかけない。近所の人から自分に対して厳しい目を向けられていると感じる。家の前で会うと、お互いにあいさつはする。	引っ越しのとき、マンションの隣の部屋の方と同じ年齢なのでいろいろ話した。同年代の単身女性でいつも日本語。ベトナムの手料理をおすそ分けしておしゃべりしている。そのほかに夫婦世帯の方とは話が通じた。最初は少ししか話せなかった。主人の転勤で家族みんな一緒にタイミンで来日。ベトナムで少し日本語を勉強していた。最初のマンションでは管理人のみとしか話せなかった。
2-2. 悩み事があるとき、家族以外で地域に相談できる相手や場所を知っていますか？	全くそう思わない	少しそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 5	全くわからないが悩むこともない。	自治会の人に聞く。子ども会の招待が来る。女性の人で話しやすい。年上のおばあちゃん。日本に住んで困ることを相談する。以前、回覧板のリサイクルステーションのボランティアの話、当番の話をしたことがある。やりたくないが1回はやらないといけない。ちょっとはずかしい気持ちがある。わからないけど私に対して怒っているかもしれないと感じる。	地域の日本語教室に通っている。困るときは相談したり話したりする。すごくやさしい先生で、友だちみたいな関係。日本のことを教えてくれる。日本語教室には3か所通っている。話ができる人が多いかもしれない。
2-3. 放課後や週末に、親子で安心して遊びに行ける場所を知っていますか？	すごくそう思う	あまりそう思わない	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 6	公園、小学校の近く。いま、子どもたちは友だちと遊びに行くようになった。	公園に子どもだけで遊びに行く。小さいときは一緒に遊んだが、今はママとは一緒に行かない。保育園のときに、お友だちの子どもとママと一緒にカラオケ、ピクニック、花火をしたりした。英語ができるお母さんがいて会話できた。ママ友とは関係が切れてしまった。他のママには私の返事が通じないので、相手が面倒くさいと感じていたかもしれない。	来日当初は家族であちこち出かけたが、子どもたちは小学生から中学生、高校生から大学生に成長しているので、だんだんと家族ではなく友だちと出かけるようになっていった。泉の森に夫婦で出かけることもある。図書館、シリュウスは子どもたちが利用する。親はイベント、コンサートなどで行くことがある。子どもたちにとっては友だちと集まる場所のようだ。
3. 教育システムへの適応（子育て・学習支援）			
3-1. お子さんの宿題の内容を見て、家で勉強を教えることができますか？	あまりそう思わない	全くそう思わない	少しそう思う
理由や具体的なエピソード 7	小学生のときは手伝っていたけど、中学生になるとそうはいかない。子どもも必要ないという。考え方が学校の先生と違う。答えは同じだけど日本と中国で違う。	宿題はむずかしくて全然手伝うのはむずかしい。子どもは自分ひとりで宿題ができる。	来日当初だけ。内容がむずかしくなり、数学以外はだんだんできなくなっていった。数学はわかるけど、日本語で説明するのは難しい、本当は説明が必要だと思う。来日当初、学校では子どもはいつも翻訳機をぶらさげていた。話す、聞くは問題ないと思う。読み書きについても、下の子は大丈夫だが、上の子はちょっとむずかしいかもしれない。それでも下の子にとって、社会、理科はいつも挑戦する気持ちでいる。そのくらいむずかしい。

3-2. 日本の学校のルール（部活動、持ち物、掃除など）を正しく理解できていますか？	すごくそう思う	少しそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 8	ルールはよく理解している。子どもが学校でうまくいかなかったことも特にない。上の子二人は、当初は日本語ができなかったから中国に帰りがっていた。姉は友だちができて 6 か月くらいで日本語ができるようになった。弟は 3 か月くらいで慣れていった。弟二人はよく日本語で話す。子どもは中国語と日本語が混じる。家庭内は中国語と日本語が半分ずつ。	日本の学校のシステムはわかる。	子どもは自分で理解できて、きちんとルールを守っている。学校の先生が具体的に説明してくれるので、持ち物など、納得している。学校給食、すごくおいしくて大好き。カレーとか。お母さんのよりもおいしいのではと思うくらい。
3-3. お子さんの進路（高校受験や塾など）について、情報を集めることができますか？	全くそう思わない	全くそう思わない	少しそう思う
理由や具体的なエピソード 9	あまり知らない。みんな長女からの情報。長女はすごく先生や友人から聞いてきたことを弟たちに伝えている。たまにけんかもある。	全然わからない。高校受験のこと、会社の同僚の子どものことなど聞いたことはある。個別指導の塾に通っている。5 年生になってから週 1 回通っている。お金、塾代が高いので 6 年生までかなと思っている。	高校は二人とも在県卒。選択肢も狭くなるけど仕方ない。塾にも通っている。塾にいかないとテストの点数が低い。上の子は高 2 から、下の子は中 2 から個別対応の塾に通っている。以前は国語なども選択していたが、いま数学のみ。塾も友だちがいるので楽しい様子だが、お金がたいへん。進学情報についてはナビが参考になった、どんな大学にいきたいか、本人の学力に応じて担任や塾の先生に相談した。だが、上の子にとっては少し悔しいこともあった。「大学入学共通テスト」というものがあると後から知ってびっくりした。当初から私立大学を志望していたが、共通テストの存在を知らなかったので、進学先の選択肢が狭くなった。面談などで先生はおそらく説明してくれたけど本人は日本語で理解できていなかった。高校の担当の先生から大学に行った方がいいとアドバイスくれたけれども、アドバイスが足りなかった。少し遅かった。高校 1 年生のころは成績が悪く、塾にも行かなかった。高 2 の 2 学期から情報を集め始めた。
4. 心理的・情緒的状況（メンタルヘルス）			
4-1. 自分もこの地域をつくる一員（仲間）だと感じていますか？	あまりそう思わない	どちらでもない	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 10	来日当初は幼稚園の保護者の手伝いなど積極的に参加した。イベントで何かつくるママたちの集まり。行くけど、日本語がわからないからなのか、周りの人から何も話しかけられることがなかった。自分は行く必要ないと思って行かなくなかった。料理は苦手でつくれないから、スーパーや冷凍もの。幼稚園のお弁当の日、毎週水曜日がたいへんだった。他の日は給食なので、なぜお弁当にする	子どもに教えるために日本の文化を勉強するとき。逆に子どもから教えてくれることの方が多い。	住めば都になる、大好き。ボランティア活動もしたい。日曜日の日本語教室では先生のサポート役をしている

	のか理解できなかった。なぜ簡単にできることを複雑にするのか理解できなかった。		
4-2. 自分の得意なこと（料理、文化など）を地域の人に披露したり、教えたりしたいですか？	全くそう思わない	あまりそう思わない	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 11	得意なことがない。運動嫌い。お茶もできない。自分の性格	日本語に自信がない。パターンがあれば、自分にもできるかもしれない。ゼロから自分でやるのはむずかしい。	みんなの口に合うかどうか、料理教室は自信がない。ベトナム語を習いたい人がいたら教えることができると思う。医療通訳をした。ベトナムでは内科クリニックで10年働いていたので、医療に関して手伝うことが好き。医療通訳の資格を持っているが、在留資格の関係でエンジニアの仕事しかできない。自分の家族のためでもある。医療の知識も他人のため、自分のため。オンライン講座で資格をとった。
4-3. お子さんの前で、言葉の壁を気にせず、自信を持って親として振る舞えていますか？	すごくそう思う	あまりそう思わない	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 12	自信がある。日本語ができなくても関係ない。質問の意味も分らない。間違った日本語を子どもが直してくれることがある。料理は夫ができるので問題ない。子どもたちもたまに自分がつくる料理について、うまいかどうか、わからないけど、文句を言わずにおいしいと言って食べてくれるのでいい子たちだなと思う。毎回全部食べてくれる。	日本語のところで自信が持てない。やさしい日本語だったらわかるけど。家庭では英語を使う。子どもに英語で話しかけるけど子どもは日本語で返ってくる。子どもから、この話はやめようと言われることもある。深い話はできない。英語と日本語がMIX。そのため日本語の勉強を頑張っている。今度 JLPT の N4 にチャレンジする。	家族の中ではまったく問題ない。反抗期になり、下の子は少し変わった。話すことが少なくなった。ママが厳しいかも。（社会の中では言葉の壁はある。みんなゆっくり話してくれる。日本人のグループに入るときは、判断ばかりでアンテナを張っている。壁を感じる。自信がないので笑われるかもしれないと思う。）
5. 生活の安全と情報格差（セーフティネット）			
5-1. 災害が起きたとき、どこに逃げればいいのか、情報をどう得るか知っていますか？	どちらでもない	全くそう思わない	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 13	自治会の防災訓練などに参加したことはない。自治会にも入っていない。あまり災害のことを考えたことがない。中国と考え方が違う。悪いことを考えると本当に地震が起きてしまう。考えるのがよくない。	県外在住の家族に聞く。アナウンス（行政防災無線）は全然わからない。	知っている。不動産屋さんから防災マップをもらった。大和市の多文化共生防災訓練に参加したことがある。
5-2. 体調が悪くなったとき、症状を伝えられる病院やサポートを知っていますか？	あまりそう思わない	すごくそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 14	日本語での診療で問題ない。中国語が通じる病院も知っているし、行ったこともある。夜間の病院などはわからないけど、今まで問題はなかった。	自分のことも、子どものことも市内のクリニックに行く。内科外科小児科。市役所で教えてもらった。英語できる。	いつも行く病院がある。準備したら問題ないが、準備しないといけない。準備が必要。子ども医療費無料なのでありがたい。
5-3. 公的な支援（手当や補助金など）の情報を、漏れなく受け取れていますか？	あまりそう思わない	すごくそう思う	すごくそう思う
理由や具体的なエピソード 15	手紙が来たらわかるけど、手紙が来なかったらわからない。	児童手当、児童扶養手当もらっている。小児医療証も OK。コロナの10万円も。社会保険に入っている。	児童手当。物価対策の5,000円ぴっくりした。すごく早い。

ここまでご回答ありがとうございます。何か今後やってほしいことなどありますか？	別にいらない、面倒くさい。子どもが小さいときは助けが必要。大きくなったので、子どもの意思を尊重している。国際交流サロンでの日本語学習は職場が同じ中国人の友人が教えてくれた。個人的な会話とか楽しいと言われたのでやってみたら、毎回来なくてもいいし、仕事優先で都合がいいときにできるのでちょうどいい。1年以上は日本語学習を継続している。とても楽しい。	大和市は外国人が多いと思う。外国人のことは見ている感じがある。近所の人とフレンドリーになれたらいい。N4は今年とりたい。	イベントがあれば、やさしい日本語で発信してほしい。このイベントがおもしろいものかどうか、読んでいてもすぐには理解できない。一番困るのは、テレビのニュースを理解できないこと。やさしい日本語だったら理解できる。そうしたら、たくさんの外国人市民もイベントに参加できるようになると思う。シリウスでもそう、おもしろそうなイベントたくさんあるが、情報処理がむずかしい。
---	---	---	---

編集： 第 6 期大和市多文化共生会議

2026 年 7 月

発行： 公益財団法人大和市国際化協会

神奈川県大和市深見西 1-3-17

市民活動拠点ベテルギウス北館 1 階

TEL 046-265-6051 FAX 046-265-6052